

科 目 名	保健科学研究法	担当教員	寺岡 睦 三宅 優紀 山本 倫子	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テ ー マ	保健科学分野で求められる研究方法論の理解（量的研究を中心に）					
使用 する テ キ ス ト	特に指定しないので、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。参考文献は文献を探す手がかりになると思います。					
講義概要・ 一 般 目 標	1. 対象者のサンプリング方法と研究倫理（寺岡 睦） 保健科学領域では研究遂行の段階で、対象者の特性を探索するためにデータ収集を行います。質的研究では該当者へインタビューを行い、量的研究では質問紙を用いデータを収集します。特に量的研究は、既存の尺度を使うもしくは自作した尺度でデータ収集をすることで、疫学調査などの大規模な情報が短期間で得られること、母集団に対して仮説の検証や予測が行えること、データを分析し統計的に妥当な検証や解釈が行えることなどのメリットがあります。研究遂行をするうえで妥当な結果を得るために、対象者の適切なサンプリングを行う必要があります。さらに、対象者に対しては倫理的な配慮が必要であり、これを厳守しなければ個人情報保護ができず対象者に不利益を及ぼしかねません。ここでは、量的研究に必要な対象者のサンプリング方法と研究倫理を学びます。これにより、研究目的に応じて対象者を適切に選定でき、倫理的配慮について遵守できるような知識を得ることができます。 2. 臨床介入研究と観察的研究のデザインについて（三宅優紀） 我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいます。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られています。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはなりません。 これからみなさんは、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となりますが、保健「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければなりません。 3. 研究論文の批判的吟味について（山本倫子） 学術誌に掲載された論文のすべてが信用できるものであるとは限りません。そのため得られた論文の結果を鵜呑みにするのではなく、研究実施の手順や目的に沿った結果の示し方などを確認し、バイアスがかかっていないかどうか等を吟味する必要があります。ここでは、保健科学分野の国際誌に掲載された論文を批判的吟味できることを目標とします。					
到達目標	日々の臨床の中で遭遇する素朴な疑問をいかに具体的に研究可能なテーマとして導き出すか。その流れを意識化しプロトコル作成につなげる思考が身に付く。					
評価方法	レポートの内容および科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	自身の研究テーマと関連づけてレポート課題をまとめること。 各課題において教務部 通信教育事務課へ提出前に1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp（第1回／寺岡）、 miyake-y@kiui.ac.jp（第2回／三宅） tmomoko@kiui.ac.jp（第3回／山本）					

課 題 内 容		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	対象者のサンプリング方法と研究倫理
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	研究を遂行する上で対象者のサンプリング方法がいくつかあります。それに関して複数の書籍を参考に要約してください。また，研究実施する上で対象者に対して遵守すべき倫理的配慮や注意点について簡潔にまとめてください。
	参 考 文 献	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	臨床介入研究と観察的研究のデザインについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	1. 介入研究のデザインについてまとめてください。その中で，バイアスとは何で，バイアスを少なくするために介入研究ではどのような工夫がなされるのか合わせて論じてください。 2. 保健科学分野で頻用される観察的研究デザインである，横断研究，ケース・コントロール研究，コホート研究について考察してください。その中で，観察的研究の限界と一般化可能性について合わせて論じてください。
	参 考 文 献	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院） ＊この書籍に限らず，複数の書籍を参考にしてください。
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	研究論文の批判的吟味について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	American Journal of Occupational Therapy, British Journal of Occupational Therapy, Canadian Journal of Occupational Therapy, Journal of Rehabilitation Medicine のいずれかに掲載されている実験的研究と観察的研究それぞれ1編の論文について批判的吟味してください。
	参 考 文 献	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院） ＊参考書籍以外に，ご自身にとってわかりやすく批判的吟味について説明している資料などを活用してください。
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業療法学研究法	担当教員	狩 長 弘 親 三 宅 本 優 紀 山 倫 子	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1	T 科目	2 単位
テ ー マ	作業療法学分野で求められる研究方法論の理解					
使 用 す る テ キ ス ト	特に指定しないので、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。参考文献は文献を探す手がかりになると思います。					
講義概要・ 一 般 目 標	この科目を学修するみなさんには、作業療法研究を包括的に理解するために、量的研究と質的研究のどちらのエッセンスも吸収していく姿勢が求められています。そのためには、作業療法学の時代背景や分野別研究、研究に関する流れを理解し、研究者としての視点を持つことが必要となります。 作業療法研究には、「サイエンス」としての側面と「アート」としての側面があります。特に、この科目では「アート」の側面を中心に学びます。 アートとしての作業療法研究は、個人によって語られたものや記述されたテキストを手がかりに、人の作業遂行に含まれている様々な「意味」を明らかにしていくものです。この質的研究とよばれる手法によって構築された説明やモデルは、作業と人間の新しい見方を提供し、作業療法がクライアントにとって意味のある物語を紡ぎだすのを助けます（NBP: Narrative-Based Practice）。 課題を通して、作業療法研究の「アート」としての側面について、長所と短所を学んでください。 オムニバス方式 1. 作業療法実践における量的研究と質的研究（山本倫子） 学問として作業療法が発展するための、時代背景と研究手法の流れを理解し、作業療法実践における量的研究と質的研究について理解する。 2. シングルシステムデザインについて（狩長弘親） 目の前の対象者だけに限れば、最も質の高いエビデンスを提供する研究は、シングルシステムデザインであるといわれている。その概要について理解を深める。 3. 質的研究の質を評価する視点について（三宅優紀） 近年、作業療法領域でも質的研究の報告が増えてきました。その研究の質を評価する判断基準について理解することを目標とする。					
到 達 目 標	・作業療法実践における量的研究と質的研究について説明することができる。 ・シングルシステムデザインについて説明することができる。 ・質的研究の質を評価する視点について説明することができる。					
評 価 方 法	科目終了試験と提出課題により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	各課題において教務部 通信教育事務課へ提出前に1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp（第1回／山本）、karinaga@kiui.ac.jp（第2回／狩長） miyake-y@kiui.ac.jp（第3回／三宅）					

課 題 内 容		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	学問としての作業療法の発展について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	学問として作業療法が発展するための、時代背景と研究手法の流れを理解し、作業療法実践においての量的研究と質的研究、それらの長所と短所を指摘してください。 参考文献以外に、ご自身で調べやすい書籍を活用してください。
	参 考 文 献	・『作業療法研究法 第2版』山田孝（編）医学書院 2012 年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	シングルシステムデザインの概要について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	目の前の対象者だけに限れば、最も質の高いエビデンスを提供する研究は、シングルシステムデザインであるといわれます。シングルシステムデザインの概要をまとめるとともに、その長所と短所を指摘してください。
	参 考 文 献	・『作業療法研究法 第2版』山田孝（編）医学書院 2012 年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	質的研究の質を評価する視点について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	質的研究の意義と基本的特徴、質的研究の基礎づけと評価基準について、端的にまとめてください。また COREQ 声明も参考に、質的研究の質を高める包括的な視点をまとめてください。
	参 考 文 献	・ 『質的研究入門-“人間の科学”のための方法論』ウヴェ・フリック（著）春秋社、2011 年 ・ COREQ: http://dx.doi.org/10.1093/intqhc/mzm042
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業療法学研究法演習	担当教員	京 極 真 岩 田 美 狩 長 弘 寺 岡 親 小 林 睦 隆 司	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1 年	S 科目	2 単位
テ ー マ	修士論文の作成に取り組む上で、必要な研究法について学修する。					
使 用 す る テ キ ス ト	作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院					
講義概要・ 一 般 目 標	作業療法学研究の潮流は、人間の作業に焦点化したものに重点が置かれつつある。人間の作業は複雑な現象であり、その探求には幅広い研究法の理解が必要である。本科目では、作業中心の研究を実現するために、研究入門から研究倫理、研究計画立案の基本、理論的研究、質的研究、量的研究、介入研究、観察研究まで幅広く学習する。					
到 達 目 標	① 研究概要，研究倫理，研究過程，主な方法論について説明できる。 ② 自己の研究課題を絞り込み，それに関連する研究法を説明できる。					
評 価 方 法	・ 講義時における口頭試問（30%），課題（30%），研究課題と研究計画（40%）で評価する。 なお，評価のために実施した課題等は，授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	スクーリングまでに自身の研究テーマを明確に整理し，指定されたテキストを読み込んでおくこと。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。スクーリング修了後は必ず復習すること。					
教 員 メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp（京極），m_oda@kiui.ac.jp（岩田），karinaga@kiui.ac.jp（狩長）， teraokam@kiui.ac.jp（寺岡），kobayashitmu@gmail.com（小林）					

スクーリング学修計画

1. 臨床研究と量的研究1（研究概要、方法の整理）
2. 臨床研究と量的研究2（データ解析）
3. 無作為化比較試験の基礎と実際
4. 質的研究1（研究概要、方法の整理）
5. 質的研究2（SCQRM、SCAT、など）
6. 質的研究3（M-GTA、データ解析、など）
7. 研究計画書作成演習1（研究課題の整理）
8. 研究計画書作成演習2（研究計画の立案と作成）
9. 研究倫理
10. 研究倫理審査申請書作成
11. 理論的研究1（研究概要、原理的思考、論証の技術 など）
12. 理論的研究2（理論統合法、理論修正法、理論継承法 など）
13. 研究計画立案のヒント
14. 発表と議論1
15. 発表と議論2
16. 口頭試問

科 目 名	基礎保健科学特論	担当教員	中 角 祐 治 狩 長 弘 親 山 本 倫 子	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1・2	T科目	4単位
テ ー マ	分子生物学的，細胞組織学および神経生理学的な視点からみた生体機能について					
使 用 す る テ キ ス ト	・『NIRS-基礎と臨床』酒谷薫 監修 新興医学出版 2012年 ・『神経伝導検査テキスト』栢森良二 著 医歯薬出版 2012年					
講義概要・ 一 般 目 標	日々の臨床で遭遇する障害のメカニズムをより深く掘り下げて探求していこうとすると必ずそこには基礎医学的な知識と技術が必要となる。基礎科学は決して、作業療法などの保健科学と無関係ではなく、基礎科学が保健科学を支え、また、日々の作業療法活動が基礎科学を発展させている。本特論では、細胞・分子・生物のレベルからヒトについての理解を深めることを主眼とする。本講義では次の3つの各論から構成される。 オムニバス方式 1. 神経心理学（狩長弘親） 若年者から高齢者まで、誰もが経験するもの忘れについて、心理学から脳科学まで多角的にとらえていくことを目標とする。 〈第1回レポート課題〉 2. 精神神経科学（山本倫子） 精神疾患の多くは脳を原因として生じることが知られている。そのため、脳機能を計測・評価することは重要である。脳機能を計測・評価する代表格としては機能的核磁気共鳴断層画像法（fMRI）が挙げられる。しかし、fMRIは時間分解能や身体拘束の問題がある。近赤外分光法（NIRS）は、空間分解能の問題があるものの自然な状態で脳機能を測定でき、精神疾患の客観的な生物学的指標として注目されている。ここでは、NIRSの測定原理、計測の基礎生理、ピットフォールについて学習する。〈第2回レポート課題〉 3. 神経生理学（中角祐治） ヒトの運動は、神経系によって制御されている。そして、作業療法では、さまざまな運動障害を対象にしている。神経・筋の活動電位を記録することは、病態を把握し、治療効果を客観的に確認することにつながる。まず、正常な神経系の機能についての理解を深め、病的な状態で観察される活動電位についても学習する。〈第3回レポート課題〉					
到 達 目 標	日々の臨床で遭遇する障害のメカニズムについて、基礎科学的な視点から捉えることができるようになる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	レポートにまとめることで、ヒトの生体機能を学ぶことを目的としている。レポート課題は、推奨図書を元に文章をまとめた後、担当教員からEメールにて添削を受けて、完成とすること。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp（第1回／狩長） tmomoko@kiui.ac.jp（第2回／山本） nakazumi@kiui.ac.jp（第3回／中角）					

課 題 内 容		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	もの忘れについて考察しなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	もの忘れの種類や実験課題、対処法について論じてください。
	参 考 文 献	・『「あっ、忘れてた」はなぜ起こる』梅田聡 著 岩波書店 2007 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	NIRS の仕組みと限界および精神疾患の鑑別診断補助
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	NIRS の測定原理，測定方法および限界についてまとめて下さい。そのうえで、精神疾患（e. g. 統合失調症、うつ病など）で観察される前頭前皮質の活動について考察し、精神疾患における NIRS 測定の作業療法への応用について論じて下さい。
	参 考 文 献	・『NIRS-基礎と臨床』酒谷薫 監修 新興医学出版 2012 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	正常な神経伝導の仕組みと手根管症候群の電気診断
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	臨床検査として行われている神経伝導検査法をまとめて下さい。その上で、手根管症候群で観察される正中神経や短母指外転筋の活動電位について、重症度別に解釈のしかたを記載して下さい。そして、神経生理学の作業療法への応用について論じて下さい。
	参 考 文 献	・『神経伝導検査テキスト』栢森良二 著 医歯薬出版 2012 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	臨床保健科学特論	担当教員	岩 田 美 幸 寺 岡 睦 子 山 本 倫 子	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テ ー マ	多様な疾患の医学・心理・社会的な側面を学び、高度専門作業療法士にふさわしい周辺領域に関する知識を獲得するのがねらいである。					
使用 する テ キ ス ト	特に指定しないので、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。参考文献は文献を探す手がかりになると思います。					
講義概要・ 一 般 目 標	臨床保健学の知見は年齢を問わず、子どもから高齢者まで、全ての人に共通して求められるものである。本特論では治療医学の視点にとどまらず、リハビリテーション医学や心理学の視点からも人間の障害の多様性について理解を深めることを目的に、以下の3つの各論から構成される。 オムニバス方式 <u>1. 感情の脳科学（山本倫子）</u> ひとは、感情を制御し相手の感情に合わせて対応することで何かしらの対価を得ながら生活しています。ここでは、ひとの情動行動に関する神経基盤や生涯発達と脳科学について理解を深め、社会支援について考察することを目標とします。〈第1回レポート課題〉 <u>2. 作業科学（寺岡 睦）</u> 現代の作業療法で着目されているOBP, OCP, OFPは依然として科学的根拠を求められる。ここでは、OBPに関連するエビデンスについてまとめ、説明出来ることを目標とする〈第2回レポート課題〉 <u>3. 保健科学（岩田美幸）</u> 保健科学の観点から、作業療法における人間の健康と幸福を保つための現状の取り組みについて説明できることを目標とする。〈第3回レポート課題〉					
到 達 目 標	到達目標は以下のとおりである。 ・感情労働について説明できる。 ・OBPに関連するエビデンス（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）について説明できる。 ・学習者の専門分野における歴史と先行研究について簡潔に説明できる。					
評 価 方 法	科目終了試験と提出課題により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	・指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。また、最後に学んだこと等を考察してください。 ・レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。 ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp（第1回／山本） teraokam@kiui.ac.jp（第2回／寺岡） m_oda@kiui.ac.jp（第3回／岩田）					

課 題 内 容		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	動物の情動行動の神経基盤や人の生涯発達について学習しながら、社会支援について考察してください。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	参考文献の第1部、第3部などを参考に作成していただいてよいと思います。ほか、ご自身で読みやすい文献、書籍を活用してください。
	参 考 文 献	・感情の脳科学―いま、子どもの命を考える― 中村俊 東洋書店 2014年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	OBP, OCP, OFP に関連するエビデンス（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）について1つ文献を読み考察しなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	インターネット上の研究論文サイトから OBP, OCP, OFP に関するエビデンスの高い研究論文（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）を1つ以上検索し、興味がある論文の概要を報告して下さい。また、自身の研究とのつながりも併せて考察してください。
	参 考 文 献	https://www.cochranelibrary.com/
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	学習者の専門分野における健康と幸福について、歴史理解と先行研究について考察しなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	インターネット上の研究論文サイトから、学習者の専門分野に関するエビデンスの高い研究論文（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）を1つ以上検索し、興味がある論文の概要を報告して下さい。また、自身の研究とのつながりも併せて考察してください
	参 考 文 献	作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	地域保健科学特論	担当教員	岩 田 美 幸 狩 長 弘 親 三 宅 優 紀	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テ ー マ	作業療法の視点から地域保健科学を探究する					
使 用 す る テ キ ス ト	全ての課題に共通したテキストはありません。課題で指定した参考文献以外にも、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。					
講義概要・ 一 般 目 標	地域保健科学では、個々の物語（ナラティブ）に代表されるような近視眼的なものから、疫学に代表されるような鳥瞰図的なものまで多岐に渡る。さらに、地域では、健常者や障害者、あるいは高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉および生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織に、連携という視点が必要となってくる。その中で作業療法がその専門性を発揮できるかが現在の大きな課題である。 本科目は、作業療法の視点から地域保健科学について探究することを目的に、以下の各論から構成される（オムニバス方式） 1. 健康増進と作業機能障害（三宅優紀） 作業機能障害は、障害者だけでなく健常者も陥る可能性がある。一般健常人における作業機能障害の存在率は約40％といわれている。この数字は、厚生労働省の調査の生活習慣病の割合と比較しても決して少なくない。また心理的問題とも関連性も示されており、国民の健康問題を考える上で見逃してはならない問題である。今回は作業機能障害について理解し、健康増進との関係について理解を深め、作業療法学と疫学の関係性について修得する。〈第1回レポート課題〉 2. リハビリテーション連携科学（岩田美幸） 医療、保健、福祉の分野において「連携」の重要性は明らかであり、地域リハシステムを確立するために、各関係機関の「横」の連携、利用者のライフステージにわたる「縦」の連携、そして、専門職のサービスとサービス利用者との対等な関係（パートナーシップ）の樹立と利用者の協働が求められている。今回は、利用者の視点に立った地域リハ連携のあり方について理解を深め、関連する理論を修得する。〈第2回レポート課題〉 3. 家族支援と作業療法（狩長弘親） 障害を持って、一人ひとりが住み慣れた地域で生き生きと生活していくためには、クライアントへの支援だけでなく、共に生活する家族への支援も不可欠である。今回は、作業療法における家族支援とその方法について理解を深め、関連する知識を修得する。〈第3回レポート課題〉					
到 達 目 標	1. 作業機能障害は生活習慣病と同等な重要事項であることを示した上で、今までの研究を振り返りながら対策の必要性を説明できる（三宅） 2. 利用者の視点に立った地域リハ連携の具体的方法について説明できる（岩田） 3. 家族支援における作業療法士の役割について説明できる（狩長）					
評 価 方 法	レポート課題各20％（計60％）、科目修了試験40％により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	各課題において、通信教育事務課への提出前に、担当教員へ1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。レポート指導は、作成途中の内容で結構です。その場合は、教員へ質問事項や不明点を明記し、連絡するようにしてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp（第1回／三宅） m_oda@kiui.ac.jp（第2回／岩田） karinaga@kiui.ac.jp（第3回／狩長）					

課 題 内 容		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	健康増進と作業機能障害の関係
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	現時点での作業機能障害関連の研究の状況と、今後どんな対象にどのような研究が必要になってくるのか、国民全体の健康増進を考えた上で論述してください。その際、作業療法士としての役割を考えながら述べてください。
	参 考 文 献	・『国民の福祉の動向』 財団法人厚生労働統計協会 ・『「作業」って何だろう 第2版』吉川ひろみ 2017年 医歯薬出版 など
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	地域リハ連携の問題点と解決方法
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	臨床経験の中で地域リハ連携の必要性を感じた事例について、利用者からみた地域リハシステムの問題点について述べてください。その中で、専門機関間の連携、地域社会との連携、地域住民との連携などを視野に入れ、作業療法士の役割について論述してください。
	参 考 文 献	・『リハビリテーション連携論』 日本リハビリテーション連携科学学会／編集 三輪書店 2009年 など
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	家族支援における作業療法士の役割
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	身障・精神・老年期・小児等、関心の高い領域に絞り込み、クライアントの社会生活を支援するうえで必要な家族への支援について述べてください。また、家族支援における作業療法士の役割について検討してください。
	参 考 文 献	・『考える作業療法』 澤田雄二編集 文光堂 2008年 ・『作業療法ジャーナル 45巻 11号 特集／家族を理解すること 支えること』 三輪書店 2011年 など
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	京 極 真	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害および関連する研究法を理解できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇(著) 医学書院 2019年					
講義概要・ 一般目標	【講義概要】 作業機能障害は、日々の作業（仕事、遊び、レジャー、ADL、IADL、休息、睡眠、教育、社会参加、健康管理）を適切にやり遂げられない状態である。作業機能障害研究に取り組むためには、作業機能障害を的確に理解したうえで、関連する研究法に精通していくことが期待される。 【一般目標】 作業機能障害の理解を深めることができる。 作業機能障害に関連する研究法を理解することができる。					
到 達 目 標	・院生自身が好きな映画を視聴し、主人公が体験する作業機能障害について、作業不均衡、作業剥奪、作業疎外、作業周縁化を記述することができる。 ・質的研究を理解し、作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。 ・観察研究を理解し、作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題をまとめるにあたっては、自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返すため、今後の学習に役立てること。					
教 員 メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1 年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害について理解できる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	自身が好きな映画を選び、視聴したうえで、主人公の作業機能障害について作業不均衡, 作業剥奪, 作業疎外, 作業周縁化の観点から記述してください。また, 主人公は作業機能障害を通して人生, 健康, 幸福にどのような影響を受けているかを考察してください。
	参 考 文 献	・寺岡睦, 京極真: 作業に根ざした実践と信念対立解明アプローチを統合した「作業に根ざした実践 2.0」の提案. 作業療法 33 (2), 249-258, 2014
	レポート提出期限	令和4年6月30日 (木)
第 2 回	レポ ー ト 課 題	質的研究を理解し, 作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	質的研究の目的と代表的な方法 (グランデッドセオリーアプローチ, 解釈学的アプローチなど) を端的にまとめてください。そして, どのような作業機能障害研究の研究テーマに適用できるかを述べ, 適用の仕方を説明してください。なお, 適用はあくまでも「案」ですから, 完璧な内容にする必要はありません。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇 (著) 医学書院 2019 年
	レポート提出期限	令和4年9月30日 (金)
第 3 回	レポ ー ト 課 題	観察研究を理解し, 作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	観察研究の目的と代表的な方法 (コホート研究, ケースコントロール研究, 横断研究など) にまとめてください。そして, どのような作業機能障害研究の研究テーマに適用できるかを述べ, 適用の仕方を説明してください。なお, 適用はあくまでも「案」ですから, 完璧な内容にする必要はありません。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇 (著) 医学書院 2019 年
	レポート提出期限	令和4年12月10日 (土)
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し, 教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 （1～2年次通年科目：2年次）	担当教員	京 極 真	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害研究に関連する研究計画を立案できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年					
講義概要・ 一 般 目 標	【講義概要】 作業機能障害は、日々の作業（仕事、遊び、レジャー、ADL、IADL、休息、睡眠、教育、社会参加、健康管理）を適切にやり遂げられない状態である。作業機能障害研究に取り組むためには、作業機能障害を的確に理解したうえで、関連する研究法に精通していくことが期待される。 作業機能障害支援学特論では、2年次に作業機能障害に関する概念生成、評価開発、介入研究について研究計画を考察してもらう。 【一般目標】 作業機能障害支援学に貢献できる論理的思考と研究法を習得するために、作業機能障害に関する概念の生成、評価尺度の開発、介入研究について一貫して考えることができる。					
到 達 目 標	・作業機能障害に関する概念の作り方を理解できる。 ・作業機能障害に関する評価尺度の作り方を理解できる。 ・作業機能障害に関する介入研究の方法を理解できる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題をまとめるにあたっては、自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp					

課 題 内 容（2年次）		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する概念の生成を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、質的研究法を使って、作業機能障害に関する概念を生成する方法を説明してください。レポートは、背景、目的、方法、予想される結果と意義にわけて記載してください。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019 年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する評価尺度を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、尺度開発法を使って、作業機能障害に関する評価尺度を開発する方法を説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予想される結果と意義にわけて記載してください。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019 年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する介入研究を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、ランダム化比較試験を使って、作業機能障害に関する介入研究の方法を説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予想される結果と意義にわけて記載してください。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019 年
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	岩 田 美 幸	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害の知識と関連する研究法を理解できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	・『作業療法の理論 原書第4版』 Kielhofner G (山田孝・監訳) 医学書院2014年 ・『作業療法研究法』 竹田徳則 (医歯薬出版会社) 2017年					
講義概要・ 一 般 目 標	【一般目標】 学問として作業療法が発展するための時代背景と作業機能を学び、作業療法実践においての作業機能障害を理解する 【講義の概要】 作業に根ざした実践 (occupation-based practice, 以下OBP) は、Reillyの作業行動の発案に直接の起源を持つ。作業行動は、道徳療法 (18～19世紀頃)、作業パラダイム (1900年から1940年頃) の基本原則として考えられる。 Reillyは、1962年のEleanor Clarke Slagle記念講演において「人間は、自分の精神と意志によって活力を与えられる両手の使用を通して、自らの健康状態に影響を及ぼすことができる」と述べた。これは、当時の還元主義パラダイムのまっただ中にもあったアメリカの作業療法を「作業」に根ざしたパラダイムへ転換するように臨床家や教育者へ求めたもので、その後、アメリカの作業療法士たちは自らのアイデンティティをとりもどしたのである。 OBPとは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為 (仕事、遊び、日課、休息) を適切にやり遂げられない問題と考えられている。最近では、寺岡らにより、作業機能障害には複数の種類があり、共通するものとして、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化の4つがあると報告されている (2013年)。 そこで作業機能障害支援学特論 (1年次) では、OBPを行なうために作業機能障害の理解を深め、それを用いた事例検討を行なう。また、先行研究を通して自己の研究テーマの妥当性を学ぶものとする。					
到 達 目 標	1. 作業機能の基礎と作業機能障害の種類を説明できる 2. 作業機能障害の評価と支援を理解することができる 3. 作業機能障害の先行研究を通して、自身の研究テーマと方法の妥当性を述べることができる					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	各課題において、教務課への提出前に、担当教員へ1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。レポート指導は、作成途中の内容で結構です。その場合は、教員へ質問事項や不明点を明記し、連絡するようにしてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	m_oda@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1 年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	作業行動論と人間作業モデルの特徴から作業機能と作業機能障害の種類について説明してください。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業に根ざした実践を行なうために、作業行動パラダイムや人間作業モデルを表す開放システムの考えを通して、作業機能は何であるかを述べてください。また、最近の研究では、作業機能障害が4種類に分類されると言われています。その種類について説明しなさい。
	参 考 文 献	・『作用療法実践のための6つの理論-理論の形成と発展』 岩崎テル子（監訳） 協同医書出版 1998 年 ・作業機能障害の種類と評価の試作版作成 寺岡睦 総合リハビリテーション 41 巻5号 2013 年5月 など
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害の種類と評価を適応した事例検討
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、前回までに学習した作業機能障害の理解を深めるために、学生自身の臨床・研究フィールドのクライアントに作業機能障害の評価と支援方法について、事例検討を実施します。
	参 考 文 献	特に指定しない
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害の先行研究と比較して、自身の研究テーマと方法の妥当性を述べるができる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、自己の研究テーマと方法について、前回までに学習した作業機能障害の先行研究と比較検討を行う。具体的には、先行研究のテーマ、方法を整理し、自己の研究テーマと方法の比較を行い、自己の研究のテーマと方法の妥当性を述べてください。
	参 考 文 献	特に指定しない
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	岩 田 美 幸	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業療法の理論について学び、作業療法の研究に関する知識と技術を深める					
使 用 す る テ キ ス ト	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019年					
講義概要・ 一 般 目 標	【一般目標】 本特論では、作業療法において、現場で抱える問題と研究疑問を結びつける論理的思考、研究に関する知識と技術を身につけることができる。 【講義の概要】 作業療法は、作業療法の理論の発展とともに変化している。世界と日本の作業療法の発展について理論の視点から整理し、現在の作業療法について必要な知識を学ぶ。 作業に根ざした実践（occupation-based practice, 以下OBP）は、Reillyの作業行動の発案に直接の起源を持つ。Reillyは、1962年のEleanor Clarke Slagle記念講演において「人間は、自分の精神と意志によって活力を与えられる両手の使用を通して、自らの健康状態に影響を及ぼすことができる」と述べた。これは、当時の還元主義パラダイムのまっただ中にあったアメリカの作業療法を「作業」に根ざしたパラダイムへ転換するように臨床家や教育者へ求めたもので、その後、アメリカの作業療法士たちは、教育内容を洗練し、自らのアイデンティティをとりもどした。 しかし、日本の作業療法教育は、大学教育が行なわれるようになったが、戦後の教育基準のままで行なわれ、十分な教育内容の改善に至っていない。そのため、高等教育についても教育方法や評価、制度について体系的に行うことが急速に行われ、作業療法研究においても発展途上の段階である。 そこで、作業機能障害支援学特論では、作業療法研究に必要な知識として、作業療法の歴史的発展を基に、作業療法での課題を示し、対策を提案することを目標とする。					
到 達 目 標	1. 研究手法に準ずる評価基準を基に自身のデータ収集の質を理解できる 2. 研究手法に基づいたデータ結果が解釈できる 3. 理論に基づいた作業療法実践と自身の研究テーマの関係を述べることができる					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	各課題において、教務課への提出前に、担当教員へ1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。レポート指導は、作成途中の内容で結構です。その場合は、教員へ質問事項や不明点を明記し、連絡するようにしてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	m_oda@kiui.ac.jp					

課 題 内 容（2年次）		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	研究手法に準ずる評価基準を基に自身のデータ収集の質を理解できる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	研究手法に準ずる評価基準を基に、自身の研究テーマに関連するデータ収集をどのように行えば質が担保されるかについて論述してください。また、データ収集を修正する必要がある場合は、その理由と方法を述べてください。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	研究手法に基づいたデータ結果が解釈できる
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	自己の研究データを証明するために、どのように分析を行えばよいのか？あるいは、修正するにはどのような方法で行えばよいのか、適切なデータ分析を実施し、結果を解釈してください。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	理論に基づいた作業療法実践と自身の研究テーマの関係を述べることができる
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	これまでの課題で学んだ理論に基づき作業療法実践と自己の研究テーマの関係を整理し、説得的に論じてください。
	参 考 文 献	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	寺 岡 睦	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害に関する知識を整理できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	『作業って何だろう？ 作業科学入門第2版』 吉川ひろみ 医歯薬出版 2017年 『作業に根ざした実践と信念対立説明アプローチを統合した「作業に根ざした実践 2.0」の提案』 寺岡睦, 他 作業療法 33(3), 249-258, 2014 『人間作業モデル 改訂第4版』 Gary Kielhofner編著・山田孝監訳 協同医書出版社 2012年 『続・作業療法の視点-作業を通しての健康と公正-』 カナダ作業療法士協会編著・吉川ひろ み監訳 大学教育出版 2011年					
講義概要・ 一 般 目 標	【講義概要】 作業療法士は作業を通して健康と幸福を促進する専門職である。1970年代にマリーライリーが作業行動パラダイムを提唱して現在に至るまで、作業の問題である作業機能障害という概念が注目されている。作業機能障害は生活行為が適切に行えていない状態であり、様々な分類がある。その中でも作業不均衡、作業剥奪、作業疎外、作業周縁化は作業機能障害そのものの特徴を捉える利点がある。他にも意志、習慣化、遂行能力、環境で作業機能障害を捉える考え方もあり、様々な視点で作業機能障害の理解が促進されている。作業機能障害は作業の問題全般を指すものであり、作業遂行障害、作業適応の困難さ、作業遂行上の問題、作業的問題、作業的不公正など様々な呼び方がある。これらの概念は広義の意味で作業機能障害を示しており、作業上の問題を説明する概念は作業機能障害と理解することができる。本講では作業機能障害に関する知識を深め学習をすることを目標とする。学習を通して作業療法専攻の主要概念が理解できることが期待される。 【一般目標】 作業療法の実践上で問題となる作業機能障害に関して理解でき、概念間の関係性を適切に把握できる。					
到 達 目 標	・作業機能障害に関して理解でき説明できる ・自身の研究と作業機能障害の関連を整理できる ・作業機能障害の分類と既存の諸概念の関係性について説明できる					
評 価 方 法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	e-メールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめて下さい。 レポート課題をまとめるにあたっては、自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。 提出されたレポートはコメントを返すため今後の学習に役立てること。					
教 員 メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1 年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害について説明できる
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業機能障害という概念を理解し、その特徴を整理してください。そして大学院生の研究にどのような点で役立ちうるかを簡潔に考察してください。
	参 考 文 献	『作業って何だろう？ 作業科学入門第 2 版』 吉川ひろみ 医歯薬出版 2017 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害の分類について説明できる
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業機能障害には様々な分類があります。作業機能障害の様々な視点（不均衡、剥奪、疎外、周縁化、意志、習慣化、遂行能力、環境など）の特徴をまとめてください。そして大学院生の研究にどのような点で役立ちうるかを考察してください。
	参 考 文 献	『作業に根ざした実践と信念対立説明アプローチを統合した「作業に根ざした実践 2.0」の提案』 寺岡睦，他 作業療法 33(3)，249-258，2014 『人間作業モデル 改訂第 4 版』 Gary Kielhofner 編著・山田孝監訳 協同医書出版社 2012 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害と既存の概念との関連性について説明できる
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業上の問題を説明する概念は作業機能障害と捉えることができます。作業機能障害に関連する概念（作業遂行障害，作業適応の困難さ，作業遂行上の問題，作業的問題，作業的不公正などを簡潔に整理して説明してください。これらの概念はごく一部であり，他の概念との関連でも構いません。
	参 考 文 献	『続・作業療法の視点-作業を通しての健康と公正-』 カナダ作業療法士協会 編著・吉川ひろみ監訳 大学教育出版 2011 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	寺 岡 睦	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害に関する研究法を理解できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年					
講義概要・ 一 般 目 標	【講義概要】 作業療法士は作業を通して健康と幸福を促進する専門職である。作業療法の誕生は18世紀ごろの道徳療法に系譜があり，19世紀ごろに医師，看護師，建築士，ソーシャルワーカーなどが創始者となり作業パラダイムの流れができはじめた。しかし作業療法は作業パラダイム当時からその専門性の理解の難解さゆえ「非科学的である」と批判され，機械論パラダイムへの転換が起こった。1970年代にマリーライリーが作業行動パラダイムを提唱し，機械論パラダイムと作業パラダイムの統合を図ると同時に，作業療法の科学的知見の蓄積を試みて現在に至る。現在では作業科学などの学問の発展により作業療法にエビデンスの高い知見が蓄積されつつある。本講では作業機能障害に関する研究法を理解するよう学習していただく。学習を通して，大学院生の皆さんに作業機能障害のエビデンスを高めるような研究遂行の知識が養われることを期待している。 【一般目標】 作業機能障害を解明するような研究法が理解でき，量的研究，質的研究，介入研究について一貫して考える事ができる。					
到 達 目 標	・ 作業機能障害に関する量的研究の方法を理解できる。 ・ 作業機能障害に関する質的研究の方法を理解できる。 ・ 作業機能障害に関する介入研究の方法を理解できる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	指定の文献を読み，レポート作成のポイントをもとに内容をまとめて下さい。 レポート課題をまとめるにあたっては，自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。 提出されたレポートはコメントを返すため今後の学習に役立てること。					
教 員 メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp					

課 題 内 容（2年次）		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する量的研究の方法を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、調査用紙を使った作業機能障害に関する量的研究を自身で立案して説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予測される結果にわけて記載してください。
	参 考 文 献	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する質的研究の方法を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、インタビュー調査を用いた作業機能障害に関する質的研究を自身で立案して説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予測される結果にわけて記載してください。
	参 考 文 献	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する介入研究の方法を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、ランダム化比較試験を用いて作業機能障害に関する介入研究を自身で立案して説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予測される結果にわけて記載してください。
	参 考 文 献	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 （１～２年次通年科目：１年次）	担当教員	三 宅 優 紀	開 講 年 次	授業形態	単位数
				１～２	T科目	８単位
テ ー マ	臨床疫学について学ぶ 作業機能障害の知識と関連する研究法を理解できる					
使 用 す る テ キ ス ト	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院） 『臨床疫学 EBM実践のための必須知識』監訳：福井次矢 メディカル・サイエンス・インターナショナル					
講義概要・ 一 般 目 標	【講義概要】 作業に根ざした実践（OBP）とは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為（仕事、遊び、日課、休息）を適切にやり遂げられない問題と考えられている。最近では、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化の４つがあると報告されている（2013年）。作業機能障害を有する者を対象とする作業療法において、適切な理論や研究方法の選択とその利用、科学的視座に立った介入方法が求められている。そのために、研究方法論について学ぶ必要があると考える。 【一般目標】 この科目では、臨床疫学について学びつつ、作業機能障害を有する人に対して作業療法士として取り組むべき課題について考えることを目標とする。					
到 達 目 標	１）研究方法について説明できる ２）作業機能障害の評価指標について説明できる ３）作業機能障害を理解できる。それを有する人に対して作業療法士として取り組むべき課題について述べることができる					
評 価 方 法	レポート課題，科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題の作成にあたっては、単なるテキストの要約にならないように留意すべきである。フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを返し、必要な指導を行う。					
教 員 メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1 年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	臨床疫学研究の方法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	臨床疫学研究についてテキストを元に調べてください。あなたのテーマを実証するために必要な研究方法を調べてください。
	参 考 文 献	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院） 『臨床疫学 EBM実践のための必須知識』監訳：福井次矢 メディカル・サイエンス・インターナショナル など
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	対象者の状況を評価するための手法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業療法士の多くは、アンケート調査、インタビュー調査を実施すると思います。アンケート調査をする場合、特に妥当性と信頼性が問われます。作業機能障害について述べ、どのような評価尺度があるか調べてください。その中で最近作成されたCAODIについて詳しく述べてください。さらにあなたの研究テーマで用いようとしている尺度を調べ、信頼性や妥当性がどのように検討されてきたのか、述べてください。
	参 考 文 献	『臨床疫学 EBM実践のための必須知識』監訳：福井次矢 メディカル・サイエンス・インターナショナル 寺岡睦 他：予防的作業療法のための作業機能障害の種類と評価の予備尺度の開発（2013） など文献を調べてください
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害を有する人に対して作業療法士として取り組むべき課題についての文献レビュー
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業機能障害について最新の知見をレビューしてください。作業療法士として取り組むべき課題を整理してください。
	参 考 文 献	Mustumi Teraoka et al: Causal relationship between occupational dysfunction and depression in healthcare workers: A study using structural equation model 三宅優紀 他：病院勤務のリハビリテーションスタッフにおける作業機能障害の種類の実態と職業性ストレスとの関連（2014） など
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	三 宅 優 紀	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	研究に関する知識と技術をさらに深める					
使 用 す る テ キ ス ト	『アクセプトされる英語医学論文を書こう』 ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、 医学書院）					
講義概要・ 一般目標	【講義概要】 作業に根ざした実践（OBP）とは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する 方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為（仕事、遊び、日課、休息）を適切にやり遂 げられない問題と考えられている。最近では、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化 の4種類に分類されると報告されている（2013年）。作業機能障害を有する者を対象とする作業 療法において、適切な理論や研究方法の選択とその利用、科学的視座に立った介入方法が求め られている。そのために、研究方法論について学ぶ必要があると考える（1年次）。 そして、2年次では臨床現場からの疑問を鮮明にし、研究疑問にしていく。そして研究目的を 明確にすることから、その研究方法を選択し、さらに必要とされる対象者の選択等を行ってい く。また、必要な文献の収集、その読み込みを重ね、論文作成に取りかかる。目次を作成し、 全体の流れを作り、修士論文を執筆する。 【目標】 修士論文を作成するために、目的、意義、方法などの書き方を習得することを目標とする。					
到 達 目 標	1）データ収集の方法と分析について説明できる 2）先行研究をまとめることができる 3）修士論文を完成させる					
評 価 方 法	レポート課題，科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題の作成にあたっては，学生の関心テーマや研究の進捗状況に応じて記載内容が変 わるため，事前に担当教員へ確認する必要がある。先行研究を確認し，学術的な文章構成，図 表や文献リストの作成方法まで十分に理解したうえで，作成することが求められる。 フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを返し，必要な指導を行う。					
教 員 メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (2年次)		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	データ収集の方法と分析について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	自身の研究テーマは、どのような方法でデータ収集・分析を行えばよいか考えてまとめてください。もし、データ収集を終えている場合は、どのように集めたのか、結果はどのように書けば良いのかについて参考文献をもとにまとめてください。実際に図表を作成しても良いです。
	参 考 文 献	授業テキスト（研究法で使用したテキストも含む） 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	先行研究の整理をする
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	自身が行った研究について国内外の文献を再度整理し、あなたの研究の独自性や、重要性、新規性を考えてください。
	参 考 文 献	授業テキスト（研究法で使用したテキストも含む） 『アクセプトされる英語医学論文を書こう』ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	論文を構成する
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	序論は最も大切なところであり、科学の広い世界から課題を受け取り自身のテーマへと絞り込んでいく必要があります。そして考察では得られた結果に基づき、先行研究と比較を行ってください。得られた結果のメカニズムについても検討してください。
	参 考 文 献	授業テキスト 『アクセプトされる英語医学論文を書こう』ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論演習 （１～２年次通年科目）	担当教員	京 極 真	開 講 年 次	授業形態	単位数
				１～２	S科目	２単位
テ ー マ	作業機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し、研究計画を理解できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）					
講義概要・ 一 般 目 標	修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の作業機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究方法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。					
到 達 目 標	院生が先行研究のレビューが行えること、量的・質的な研究方法を理解できること、研究計画を立案できること。					
評 価 方 法	課題（５０％）と発表（５０％）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までに見直しておくこと。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	スクーリングまでに自身の研究テーマを明確にし、テキストを通読しておくこと。スクーリング修了後は必ず復習すること。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なうため、今後の研究の発展に役立てること。					
教 員 メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. 作業機能障害とその種類(1年秋期スクーリング)
2. 作業機能障害者に対する支援(1年秋期スクーリング)
3. 院生の研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 院生の研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と作業機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と作業機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 作業機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と作業機能障害とその支援1(1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
10. 質的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
11. 質的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
12. 理論的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
13. 理論的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
14. 混合研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
15. 混合研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)

科 目 名	作業機能障害支援学特論演習 （１～２年次通年科目）	担当教員	岩 田 美 幸	開 講 年 次	授業形態	単位数
				１～２	S科目	２単位
テ ー マ	作業機能の知識を学び、自己の研究課題を明確にする					
使 用 す る テ キ ス ト	・作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 （医学書院）					
講義概要・ 一 般 目 標	作業機能障害援助特論と平行して、作業療法の現場にてデータを取って解析し、その知見を報告する。１年次秋期は、量的なデータ収集・解析、冬期は質的なデータ収集・モデルの構築を目標とする。２次秋期は、これ迄の作業機能障害援助特論の科目を総括となる科目である。研究テーマにそって研究を実施し、修士論文作成の指導を行なう。					
到 達 目 標	修士論文を作成する過程において、先ず研究計画、研究方針を策定する第一の科目である。１年次は、先行研究より、自己の研究課題の現状について知識を深め、研究テーマを明確にする。予備的調査として、実際に作業療法の現場においてデータを収集と解析、その知見を深めることを到達目標とする。２年次秋は、修士論文を作成する過程において、自身の研究に必要な現状について知識を深め、研究テーマをそった修士論文の作成を到達目標とする。					
評 価 方 法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	月に３～４回のテレビ電話での指導を行う。指導日前日までに、研究進行状況、必要書類をメールにて提出すること。日にちは、指導終了後に決定する。 スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。					
教 員 メールアドレス	m_oda@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. 作業療法研究の量的研究・質的研究の概要（１年次秋期スクーリング）
2. 研究テーマの策定（１年次秋期スクーリング）
3. 研究テーマに沿った先行研究の調査（１年次秋期スクーリング）
4. 研究テーマに関する予備的研究の計画（１年次秋期スクーリング）
5. 研究テーマに関する予備的研究の概要発表（１年次冬期スクーリング）
6. 概要発表の講評（１年次冬期スクーリング）
7. 現在までの資料点検と不備の確認（２年次夏期スクーリング）
8. 上記実験／調査結果の実施（２年次夏期スクーリング）
9. 上記研究の進捗状況報告１（２年秋期スクーリング）
10. 上記研究の進捗状況報告と講評（２年秋期スクーリング）
11. 上記実験／調査結果の収集（２年秋期スクーリング）
12. 上記実験／調査結果の整理（２年秋期スクーリング）
13. 上記実験の発表準備（２年秋期スクーリング）
14. 上記実験の発表（２年冬期スクーリング）
15. 発表の講評（２年冬期スクーリング）

科 目 名	作業機能障害支援学特論演習 （１～２年次通年科目）	担当教員	寺 岡 睦	開 講 年 次	授業形態	単位数
				１～２	S科目	２単位
テ ー マ	作業機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し，研究計画を立てることができる。					
使 用 す る テ キ ス ト	作業で創るエビデンス，作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）					
講義概要・ 一 般 目 標	本演習では修士学位論文の作成に必要な研究のテーマの具体化を行い，実施する技術を習得できるよう学習する。大学院生には自身の作業機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い，その意義と独創を明確にしてもらう。また自身の研究目的を達成できる研究法を中心に学習し，研究計画の立案と実施を行っていく。					
到 達 目 標	大学院生が自身の研究テーマに関連する文献のレビューが行えること，基本的な研究方法（量的・質的・介入・理論など）を理解できること，研究目的を達成できるような計画を立案，実施できること。					
評 価 方 法	課題（50％）と発表（50％）で評価する。 実施した課題はコメントをつけてフィードバックする。					
オフィスアワー	講義終了後，またはeメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	自身の研究に関連のある文献レビューを行い，研究テーマを明確にすること。スクーリング開始までには自身の研究を適宜遂行させておくこと，スクーリング修了後は必ず復習すること。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行うため，その後の研究遂行に役立てること。					
教 員 メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. 作業機能障害とその種類(1年秋期スクーリング)
2. 作業機能障害者に対する支援(1年秋期スクーリング)
3. 院生の研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 院生の研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と作業機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と作業機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 作業機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と作業機能障害とその支援1(1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
10. 質的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
11. 質的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
12. 理論的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
13. 理論的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
14. 混合研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
15. 混合研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)

科 目 名	作業機能障害支援学特論演習 （１～２年次通年科目）	担当教員	三 宅 優 紀	開 講 年 次	授業形態	単位数
				１～２	S科目	２単位
テ ー マ	作業機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し、研究計画を立案できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	作業療法研究法 第二版 山田孝・編 （医学書院） 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）					
講義概要・ 一 般 目 標	修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。院生には自身の作業機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、研究計画の立案を行っていく。					
到 達 目 標	・ 先行研究のレビューが行えること ・ 量的・質的な研究法を理解できること ・ 研究計画を立案できること					
評 価 方 法	課題（５０％）と発表（５０％）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	スクーリングまでに自身の研究テーマを明確にし、テキストを通読しておくこと。スクーリング修了後は必ず復習すること。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なうため、今後の研究の発展に役立てること。					
教 員 メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. 作業機能障害とその種類, 評価(1年秋期スクーリング)
2. 作業機能障害者に対する支援(1年秋期スクーリング)
3. 研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 研究課題の発表とフィードバック(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と作業機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と作業機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 作業機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と作業機能障害 1 (1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と作業機能障害 2 (2年秋期スクーリング)
10. 質的研究と作業機能障害1(2年秋期スクーリング)
11. 質的研究と作業機能障害と2(2年秋期スクーリング)
12. データの分析法 1 (2年秋期スクーリング)
13. データの分析法 2 (2年秋期スクーリング)
14. データの分析法 3 (2年秋期スクーリング)
15. まとめ (2年秋期スクーリング)

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	中 角 祐 治	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	手の外科の要点と盲点					
使 用 す る テ キ ス ト	手の外科の要点と盲点 金谷文則 編集 文光堂 2007年					
講義概要・ 一 般 目 標	テキストに従って進める。 1；手の外科に必要な解剖 2；診断の基本 3；保存療法 4；外傷 手の外科の要点を理解し，ハンドセラピーの技能を高める。					
到 達 目 標	手の機能解剖を再学習し，知識が深まる。 そして，手の外科における疾病・外傷の診断と治療の流れが理解できる。 また，陥りやすい盲点とその対策を知り，作業療法に生かせるようになる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	教科書に沿って進めます。 フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	nakazumi@kiui.ac.jp					

課 題 内 容（１年次）

第 １ 回	レポ ー ト 課 題	手の外科に必要な解剖診断の基本
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って，上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト １～25 ページ
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 ２ 回	レポ ー ト 課 題	診断の基本
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って，上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 26～87 ページ診断の基本
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 ３ 回	レポ ー ト 課 題	保存療法，外傷
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って，上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 88～147 ページ
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	中 角 祐 治	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	手の外科の要点と盲点					
使 用 する テ キ ス ト	手の外科の要点と盲点 金谷文則 編集 文光堂 2007年					
講義概要・ 一 般 目 標	テキストに従って進める。 5；障害 6；腫瘍 7；リウマチ 8；先天異常 手の外科の要点を理解し、ハンドセラピーの技能を高める。					
到 達 目 標	手の機能解剖を再学習し、知識が深まる。 そして、手の外科における疾病・外傷の診断と治療の流れが理解できる。 また、陥りやすい盲点とその対策を知り、作業療法に生かせるようになる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	教科書に沿って進めます。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	nakazumi@kiui.ac.jp					

課 題 内 容（2年次）

第 4 回	レポ ー ト 課 題	骨折, 脱臼, 腱損傷
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って, 上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 148～229 ページ
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	神経損傷, 切断指, 皮弁
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って, 上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 230～299 ページ
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	障がい
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って, 上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 300～404 ページ
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し, 教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 （１～２年次通年科目：１年次）	担当教員	狩 長 弘 親	開 講 年 次	授業形態	単位数
				１～２	T科目	８単位
テ ー マ	脳損傷者における生活障害の理解と実践への適応					
使 用 す る テ キ ス ト	・『高次脳機能障害の作業療法』 鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年					
講義概要・ 一 般 目 標	高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦で平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。 本特論（1年次）では、リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学び、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方について理解を深めることを目的とする。					
到 達 目 標	高次脳機能障害の各症状の障害特性や作業療法の役割を説明できる。					
評 価 方 法	レポート課題および科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。 また、最後に学んだこと等を考察してください。 レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1 年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	脳損傷後の機能回復のメカニズム
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストの第3章を参考に，回復の基盤から影響を与える因子まで含め考察してください。
	参 考 文 献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010 年 ・『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』鹿島晴雄・大東祥孝・種村純編集 永井書店 2008 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	高次脳機能障害 各論
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストの第4章～第13章のうち興味のあるものを一つ選択し，症状の特性，評価，治療について考察してください。
	参 考 文 献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	高次脳機能障害の作業療法
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストの第14章～第17章を参考に，高次脳機能障害の作業療法の特徴，作業療法士の役割について考察してください。
	参 考 文 献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 （1～2年次通年科目：2年次）	担当教員	狩 長 弘 親	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脳損傷者における生活障害の理解と実践への適応					
使 用 す る テ キ ス ト	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021年					
講義概要・ 一 般 目 標	高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦で平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。 本特論（2年次）では、1年次に学んだ内容を基盤に、脳損傷者における生活障害の捉え方や支援法について理解を深め、かつ自身の研究テーマとの関係について検討することを目的とする。					
到 達 目 標	脳損傷者における生活障害の捉え方や支援法についてその動向や問題を理解でき、自身の実践と研究の関連性を説明できる。					
評 価 方 法	レポート課題および科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。 また、最後に学んだこと等を考察してください。 レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp					

課 題 内 容（2年次）		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	生活障害とその捉え方について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脳損傷者における生活障害について問題を焦点化し、それを捉えるためのツール、理論的基盤についてまとめてください。
	参 考 文 献	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	生活障害への支援法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脳損傷者に対する生活障害への支援の方略について、環境的な側面など、自らの研究の観点からまとめてください。
	参 考 文 献	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021 年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	生活障害への支援の実践事例
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	前回までに学修した生活障害への支援の理解を深めるため、事例検討を実施します。レポートの様式は特に指定しませんが、日本作業療法士協会の事例報告登録制度の形式を参考にしても良いです。
	参 考 文 献	特に指定しない
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	山 本 倫 子	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	・ひとの心がどのようにしてつくられるか、という問いについて知覚、記憶、思考、情動、想像、意思に着目し学習する。 ・精神機能障害の支援について作業機能障害との関連について考察を深め、支援方法を探求していく。					
使 用 す る テ キ ス ト	・『作業療法の理論』監訳：山田孝，医学書院 ・第2版「作業」って何だろう 吉川ひろみ 医歯薬出版 ・子どもの心はつくられる ヴィゴツキーの心理学講座 普及版 ヴィゴツキー著 / 菅田洋一郎 監訳 / 広瀬信雄 訳 新読書社 ・個人で探してください。					
講義概要・ 一 般 目 標	この科目を学修するみなさんには、心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では、人の心がどのようにつくられるのかという問いに対して知覚、記憶、思考、情動、想像、意思に着目し、学習します。また、学習を通して作業機能障害と精神機能の障害支援の方法について探求していきます。 一般目標：人の心がどのようにつくられるのかについて探求、学習し、作業機能障害と精神機能の障害支援について考察を深め探求していくことを目標とします。					
到 達 目 標	・精神機能の知覚、記憶、思考、情動、想像、意思の発達について理解することができる。 ・作業機能障害と精神機能障害の支援について探求することができる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	各課題において教務課へ提出前に1回以上レポート指導を仰ぐようにしてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1 年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	人の心がどのようにつくられるのかについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	人の心がどのようにつくられるのかについて調べてください。 あなたのテーマを実証するために必要な研究方法を調べてください。
	参 考 文 献	『作業療法の理論』監訳：山田孝，医学書院 子どもの心はつくられる ヴィゴツキーの心理学講座 普及版 ヴィゴツキー著 / 菅田洋一郎 監訳 / 広瀬信雄 訳 新読書社
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	対象者の状況を評価するための手法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業療法士の多くは、アンケート調査、インタビュー調査を実施すると思います。アンケート調査をする場合、特に妥当性と信頼性が問われます。作業機能障害について述べ、どのような評価尺度があるか調べてください。その中で最近作成された CAOD について詳しく述べてください。さらにあなたの研究テーマで用いようとしている尺度を調べ、信頼性や妥当性がどのように検討されてきたのか、述べてください。
	参 考 文 献	寺岡睦 他：予防的作業療法のための作業機能障害の種類と評価の予備尺度の開発（2013） など文献を調べてください
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	心身機能障害を有する人に対して作業機能障害との関連を検討しながら、作業療法士として取り組むべき課題についての文献レビュー
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	心身機能障害と作業機能障害との関連に着目し、最新の知見をレビューしてください。作業療法士として取り組むべき課題を整理してください。
	参 考 文 献	第 2 版「作業」って何だろう 吉川ひろみ 医歯薬出版 Mustumi Teraoka et al: Causal relationship between occupational dysfunction and depression in healthcare workers: A study using structural equation model
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	山 本 倫 子	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	研究に関する知識と技術をさらに深める					
使 用 す る テ キ ス ト	・『アクセプトされる英語医学論文を書こう』 ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 ・『これから論文を書く若者のために』 酒井聡樹著 共立出版					
講義概要・ 一般目標	【講義概要】 心身機能障害を有する人の支援において、作業機能障害に対する支援との関連は無視できない。心身機能障害を有する人の作業機能障害に対する支援では、作業に根ざした実践について関心が寄せられていることから、心身機能障害と作業機能障害との関連について学習し、心身機能障害を有する人への支援について探索していく。 作業に根ざした実践（OBP）とは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為（仕事、遊び、日課、休息）を適切にやり遂げられない問題と考えられている。近年において作業機能障害は、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化の4つがあると報告された（2013年）。作業機能障害を有する者を対象とする作業療法において、適切な理論や研究方法の選択とその利用、科学的視座に立った介入方法が求められている。そのために、研究方法論について学ぶ必要があると考える（1年次）。 そして、2年次では臨床現場からの疑問を鮮明にし、研究疑問にしていく。そして研究目的を明確にすることから、その研究方法を選択し、さらに必要とされる対象者の選択等を行っていく。また、必要な文献の収集、その読み込みを重ね、論文作成に取りかかる。目次を作成し、全体の流れを作り、修士論文を執筆する。 【目標】 修士論文を作成するために、目的、意義、方法などの書き方を習得することを目標とする。					
到 達 目 標	1) データ収集の方法と分析について説明できる 2) 先行研究をまとめることができる 3) 修士論文を完成させる					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	各課題において教務課へ提出前に1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp					

課 題 内 容（2年次）		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	データ収集の方法と分析について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	自身の研究テーマは、どのような方法でデータ収集・分析を行えばよいか考えてまとめてください。もし、データ収集を終えている場合は、どのように集めたのか、結果はどのように書けば良いのかについて参考文献をもとにまとめてください。
	参 考 文 献	『これから論文を書く若者のために』酒井聡樹著 共立出版 など探してください
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	先行研究の整理をする
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	国内外の文献の整理をし、あなたの研究の独自性や重要性を考えてください
	参 考 文 献	『アクセプトされる英語医学論文を書こう』ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 『これから論文を書く若者のために』酒井聡樹著 共立出版 など探してください
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	論文を構成する
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	序論は最も大切なところであり、科学の広い世界から課題を受け取り自身のテーマへと絞り込んでいく必要があります。そして、対象・方法・結果・考察・結論と続きます。
	参 考 文 献	『アクセプトされる英語医学論文を書こう』ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 『これから論文を書く若者のために』酒井聡樹著 共立出版 など探してください
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	小 林 隆 司	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	医療系ドラマの探求					
使 用 す る テ キ ス ト	適宜紹介					
講義概要・ 一 般 目 標	良質な医療系ドラマには、人間の生と死、愛と憎悪、希望と絶望、友情と裏切り、正義と陰謀等が丁寧に描かれています。 ビデオを楽しみながら、医療の抱える様々な問題について考え、自分なりの意見を持ち、文章にそれを表せることを目標にします。					
到 達 目 標	1. 脳死と臓器移植について説明できる 2. ステイグマについて説明できる 3. 医療系ドラマをみて、自分で調べ、考察したことを、説明できる					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	1. レポート作成のポイントを確認後、指定のビデオを見てください 2. わからなかったこと。興味を持ったことについて調べてください 3. レポートを作成してください					
教 員 メールアドレス	kobayashitmu@gmail.com					

課 題 内 容（１年次）		
第 １ 回	レポ ー ト 課 題	ビデオを見て、下記のポイントに答えた上で、脳死と臓器移植に関するあなたの考えを書きなさい (命より大事なもののや後輩育成などについて考察してもいいです)
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	１．緋山はなぜ、脳死の書類を丁寧に書いていたのか？ ２．名取はどうして髪の毛を洗わせてもらいたいと言ったのか？ ３．匠くんからの移植で何人の命が救われることになったか？
	参 考 文 献	「コードブルー」シーズン３第６話「落胆の向こう側」
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 ２ 回	レポ ー ト 課 題	ビデオを見て、下記のポイントに答えた上で、スティグマに関するあなたの考えを書きなさい
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	１．なぜ、ホジュンはサンファの皮膚に口を付けたのでしょうか？ ２．大師はサンファになぜ「殻を打ち破れ」と言ったのでしょうか？ ３．大師はなぜ、危険な薬を自分に試したのでしょうか？
	参 考 文 献	「ホジュン」第 35 話「大師の手紙、その心」
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 ３ 回	レポ ー ト 課 題	ビデオを見て、興味を持った点について調べ、あなたの考えを書きなさい
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	ビデオのタイトルを記載してください。心に残ったシーンなどを記載してください。興味を持って調べ考察したことを書いてください。
	参 考 文 献	自分で適宜視聴すること
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	小 林 隆 司	開 講 年 次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	エピソード記述を書こう					
使 用 す る テ キ ス ト	適宜紹介					
講義概要・ 一 般 目 標	鯨岡峻は、「養育であれ、保育であれ、教育であれ、看護であれ、介護であれ、あるいは臨床であれ、すべての対人実践は『接面』で営まれています。その接面で起こっていることは、その当事者には掴めても第三者には近づくことができません。つまり、対人実践の最も重要な部分は客観科学のパラダイムでは接近できない内容を抱えています。そこに入り込むには接面パラダイムに立つしかありません。そこに入り込むための手順の一つがエピソード記述であり、そこから生まれる研究が『接面の人間学』です」と著書の中で述べている。 ここでは、エピソード記述が書けることを目標とする。					
到 達 目 標	1. 接面について説明できる 2. エピソード記述の書き方について説明できる 3. 実際にエピソード記述が書ける					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	参考文献等を読んで、レポートをまとめてください。最終的には、目の前のクライアント等とのエピソード記述が書けることが目標なので、日ごろから心が通い合った瞬間の出来事について気に留めておくようにすると思います。					
教 員 メールアドレス	kobayashitmu@gmail.com					

課 題 内 容（2年次）

第 4 回	レポ ー ト 課 題	接面とは何か
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	接面とはどのようなもので、そこで何が起きているのかについて説明できるようにしてください
	参 考 文 献	鯨岡峻「関係の中で人は生きる」ミネルヴァ書房 等
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	エピソード記述の書き方について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	エピソード記述の構造と書き方について、例を挙げて説明できるようにしてください
	参 考 文 献	鯨岡峻「エピソード記述入門」東京大学出版会 等
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	自分のクライアントとのエピソード記述
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	日々の臨床等の中で体験したことをもとにエピソード記述を書いてください
	参 考 文 献	
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	中 角 祐 治	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	この講義では, 手の外科における研究疑問の整理, 研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使 用 す る テ キ ス ト	手の外科の要点と盲点					
講義概要・ 一 般 目 標	手の外科に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために, 対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて, 個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。					
到 達 目 標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈, 先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評 価 方 法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言, 受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後, またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	研究の考え方や論文の読み方は講義の中で学びますが, それを踏まえて自身の研究に関連した先行研究をしっかりとレビューすることが何よりも大事になります。スクーリングで一から学ぶという姿勢ではなく, 計画書の作成や研究結果に対する考察にあたって先行研究をきちんと調べ, 自分なりに考えを持った上で講義に臨んでください。また, 講義後は学んだことを速やかに反映させて, 教員に連絡を取るようになってください。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行なう。					
教 員 メールアドレス	nakazumi@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科 目 名	心身機能障害支援学特論演習 （１～２年次通年科目）	担当教員	狩 長 弘 親	開 講 年 次	授業形態	単位数
				１～２	S科目	２単位
テ ー マ	高次脳機能障害作業療法分野を主体とした各自の関心テーマに関する国内外の先行研究のレビューを行い，研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。					
使 用 す る テ キ ス ト	作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院					
講義概要・ 一 般 目 標	本演習では高次脳機能障害作業療法分野を主体とした研究についてテーマの具体化を行い，実施するうえで必要な実験・調査や解析方法を学習する。また，各自の修士論文テーマをふまえた発表を通して演習内容の理解を深めるものとする。					
到 達 目 標	研究実施やデータ分析のための方法について理解し，文献レビュー結果をふまえ，当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。					
評 価 方 法	課題（40%）、科目修了試験（40%）、受講態度（20%） なお，実施した課題等は講義でフィードバックする。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	定期的に文献レビューの結果や研究の進捗状況について報告すること。スクーリングまでに指定のテキストを読み込むこと。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。					
教 員 メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. オリエンテーション(1年秋期スクーリング)
2. 研究テーマの策定(1年秋期スクーリング)
3. 研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 統計解析の方法(1年冬期スクーリング)
6. 統計解析の実際1(1年冬期スクーリング)
7. 統計解析の実際2(1年冬期スクーリング)
8. 研究デザインの総括(1年冬期スクーリング)
9. 実験・調査結果の整理 1(2年秋期スクーリング)
10. 実験・調査結果の整理 2(2年秋期スクーリング)
11. 実験・調査結果の分析1(2年秋期スクーリング)
12. 実験・調査結果の分析2(2年秋期スクーリング)
13. 分析結果の解釈 1(2年秋期スクーリング)
14. 分析結果の解釈2(2年秋期スクーリング)
15. まとめ(2年秋期スクーリング)

科 目 名	心身機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	山 本 倫 子	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	心身機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し、研究計画を理解できる。					
使 用 す る テ キ ス ト	作業療法研究法 第二版 山田孝・編 (医学書院)					
講義概要・ 一 般 目 標	修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の心身機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。					
到 達 目 標	院生が先行研究のレビューが行えること、量的・質的な研究法を理解できること、研究計画を立案できること。					
評 価 方 法	課題（50％）と発表（50％）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	・スクーリングまでに自身の研究テーマを明確にし、テキストを通読しておくこと。 ・スクーリング修了後は必ず復習すること。 ・スクーリング最終時間で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。					
教 員 メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. オリエンテーション(1年秋期スクーリング)
2. 心身機能障害者について文献の精読(1年秋期スクーリング)
3. 院生の研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 院生の研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と心身機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と心身機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 心身機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と心身機能障害支援の研究計画立案1(1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と心身機能障害支援の研究計画立案2(2年秋期スクーリング)
10. 量的研究の研究計画とデータ収集1(2年秋期スクーリング)
11. 量的研究の研究計画とデータ収集2(2年秋期スクーリング)
12. 量的研究の研究計画とデータ分析1(2年秋期スクーリング)
13. 2量的研究の研究計画とデータ分析(2年秋期スクーリング)
14. 研究成果と作業療法実践の関連(2年秋期スクーリング)
15. まとめ(2年秋期スクーリング)

科 目 名	心身機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	小 林 隆 司	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	発達障害領域の作業療法					
使 用 す る テ キ ス ト	適宜紹介					
講義概要・ 一 般 目 標	発達障害領域の作業療法に関する理論や具体的評価方法及び実践内容について学ぶとともに、国内外の研究動向に着目し、自立した研究者になるために必要な知見を得ることを目標とします。					
到 達 目 標	1. 発達障害領域の作業療法について概説できる 2. 国内外の論文から現状と課題を把握し、自身の研究に生かすことができる 3. 子どもの地域支援の在り方について自分の意見を述べるができる					
評 価 方 法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	以下の学びのサイクルにそって進めます 更に 興味をもつ 調べる 考える 表明する 意見をもらう 更に					
教 員 メールアドレス	kobayashitmu@gmail.com					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科 目 名	特別研究	開 講 年 次	授業形態	単位数
		1 ～ 2	TS科目	10単位
担 当 教 員	赤在あゆみ・京極 真・竹崎和子・柘野浩子・中角祐治・中瀬克己・服部俊夫・岩田美幸・狩長弘親・福岡美和・寺岡 睦・三宅優紀・山本倫子			
テ ー マ	理論に基づいた作業療法実践 (Theory Based Occupational Therapy) を可能とする, 臨床現場で抱える諸問題を解決するための修士論文を作成する。			
使 用 す る テ キ ス ト	・保健科学研究法, 作業療法学研究法において使用するテキスト ・研究のテーマや進捗状況に応じて, 指導教員が適宜指示			
講義概要・ 一 般 目 標	講義概要: 各々が設定した臨床疑問から, 研究疑問の構造化, 先行・関連研究の批判的吟味, 量的・質的な研究デザインの検討を通して研究計画の立案を行う。研究計画立案後は, 倫理審査委員会への申請, 実際のデータ収集, 得られたデータの分析, 解釈, 考察を通じて中間発表, 修士論文の執筆, 最終発表を行う。スクーリングでは, 個別・グループでの対面指導を実施し, 研究発表会でのプレゼンテーションやディスカッションによって, 研究の進展を多角的に支援する。 一般目標: 修士論文を作成するための基本技術 (研究テーマの設定, 文献検索, 研究方法の理解, 研究倫理の遵守, 論文の章立て・構成, 引用文献の記載方法, 図表の作成方法, 論文・要旨の書き方など) を修得する。			
到 達 目 標	・各自が選定した作業療法における研究疑問について, 先行研究の批判的吟味, 研究デザインの検討を通して, 具体的な研究計画の立案を行い, 研究計画書を作成できる。 ・研究計画書に基づき, 研究を実施し, 得られたデータの分析, 解釈を通して修士論文を作成できる。 ・修士論文の完成を通じて得られた研究成果を用いて, 質の高い作業療法実践が行える。			
評 価 方 法	研究遂行, 修士論文執筆に対する態度・姿勢, 修士論文の完成度, 最終発表会でのプレゼンテーションと質疑応答の内容から総合的に評価する。			
オフィスアワー	講義終了後, またはEメールを使用して実施します。			
学 修 の 進 め 方	Microsoft Teams等により, 定期的に進捗状況の報告を行ったうえで研究を進めてください。			
教 員 メールアドレス	別途指示 (赤在), kyougoku@kiui.ac.jp (京極), takesaki@kiui.ac.jp (竹崎), nakazumi@kiui.ac.jp (中角), knakase@kiui.ac.jp (中瀬), hattorit@kiui.ac.jp (服部), m-fukuok@kiui.ac.jp (福岡), m_oda@kiui.ac.jp (岩田), karinaga@kiui.ac.jp (狩長), teraokam@kiui.ac.jp (寺岡), miyake-y@kiui.ac.jp (三宅), tmomoko@kiui.ac.jp (山本)			

スクーリング学修計画

1. 研究計画内容の検討
2. 研究科講演会（外部講師）
3. 研究科講演会（外部講師）
4. 修士論文事前審査会参加
5. 修士論文事前審査会参加
6. 研究倫理教育
7. 文献・資料の検討
8. 研究計画発表会準備
9. 研究計画発表会
10. 研究計画発表会
11. 研究計画内容、仮説の再検討
12. 研究会講演会（外部講師）
13. 研究科講演会（外部講師）
14. 修士論文最終発表会参加
15. 修士論文最終発表会参加
16. データの全体的特徴の把握
17. 解析結果の解釈
18. 修士論文中間発表会準備
19. 修士論文中間発表会
20. 修士論文中間発表会
21. 研究科講演会（外部講師）
22. 研究科講演会（外部講師）
23. 修士論文事前審査会
24. 修士論文事前審査会
25. 研究計画発表会参加
26. 研究計画発表会参加
27. 全体の構成
28. プレゼンテーションの実施の仕方
29. 修士論文最終発表会
30. 修士論文最終発表会